

くにたち・梨園ボランティア (略称KNV)

国立市

平成30年1月調査

1 活動の目的

国立市内にある梨園は、園主の高齢化と後継者不足のため、梨園の維持・管理が困難になり、困っている梨園もあるそうです。事実2001年に一軒の梨園が、2004年には一軒の梨園で梨畑の半分が、2006年にも一軒の梨園が無くなりました。更に2008年に一軒が閉園し、2009年にも区画整理のために一軒の梨園が閉園と、次第に少なくなり、2012年には当初10園あった梨園は2園となりました。

国立市から梨園が消えることのないよう、心ある市民の皆様で、梨園の維持・管理のお手伝いをしながら、労働の快い汗を楽しみ、梨園農家の人々との交流を深め、参加された方々との親睦を深め、よりよい・より幅広い地域社会生活での1ページが付け加われば楽しいと思います。

2 活動が始まったきっかけ

18年前、梨園主とスポーツで交友のあった初代会長が、市民農園の仲間と二人で梨園の作業を手伝ったのが活動のきっかけです。その後、人手不足や後継者難など苦境に立たされている国立の梨園の実態を知った二人は、もっと大勢の市民の助けが必要と決意し、自ら市民に呼びかけて2000年11月に会が発足しました。

3 会員資格

活動の趣旨をご理解いただける方ならばどなたでも。

4 会員の募集方法

問い合わせ先に挙げた、いずれかの手段でご連絡ください。

5 入会金・年会費等の有無

年会費1,000円。(ボランティア保険、事務費、通信費等)

6 会員数

10人
他に、体験ボランティアが毎年10~20名程度参加します。
2017年は、香港から高校生8名の体験ボランティアを受け入れました。



7 会員の特徴

会の発足からこれまで、多い時には老若男女30名近くの会員で、援農だけでなく夏の終わりに国立駅前1日だけの地元の梨のPRを兼ねた即売会「くにたち産梨市」を開催していた時期もありましたが、現在は男性9名、女性1名で、年齢層は40代から86歳と、会員の高齢化が進んでいます。

当初の参加目的は、土に触れたい、健康維持など様々ですが、国立の梨園をできるだけ存続させるという目的では全員一致しています。また、会員と梨農家との間には、長期にわたって築いてきた厚い信頼関係があります。

8 行政等からの支援の有無

市役所には、毎春に体験ボランティア募集記事の市報掲載という形で支援を受けています。
梨農家から、毎年25,000円の活動協力金をいただき、用具の購入や会の運営費用に充てています。



9 活動概要 (援農ボランティア)

活動場所は、国立市に残る2園の梨園です。

- 原則無報酬にて、春の花粉付けを中心に、摘果、袋掛け、網張り、肥料撒き、剪定など、通年に渡り作業を支援
- 援農先との窓口を事務局長に一本化、会員の参加可能日を会で集約して日程調整することで、農家の負担を軽減

年間作業日数及び人数の推移

年	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16
日数	142	134	122	129	123	106	115	112	89	104	88	98
人数	518	561	536	554	531	545	478	489	445	490	374	387
(体験)	26	91	54	79	57	121	88	75	66	58	28	69
人/日	3.6	4.2	4.4	4.3	4.4	5.1	4.1	4.1	5.0	4.7	4.3	3.9

人数はのべ、(体験)は内数。

会の活動は、体験ボランティアも含め無償です。尚、豊作の年には、体験ボランティアも含めて、梨のお福分けがあります。また、作業後に園主さんのご厚意で野菜などをいただくこともあります。
国立市内では観光まちづくり協会など農業関係以外の団体と、また援農作業を行う団体ではありませんが情報発信による援農を目指す三鷹の「まちなか農家」など市外の団体とも交流し、都市農業の将来について定期的に意見交換などを行なっています。

10 現在、運営・活動で大変に感じる事、困っていることなど

課題は支援力の低下です。

- 1 高齢化：病気、怪我などによる故障、体力や認知機能の低下
- 2 会員数の減少：市外転出等で会員減の一方、2012年以降の新規入会なし
- 3 体験ボランティア募集の困難化：梨園以外の農体験の増加ボランティア意識の変化(有償と引換えの強い責任感)

11 今後の方向性

上述した課題に対し、一昨年秋から1年間、

- 案A Facebook等新たなITツールを活用して若い会員を増やす策
- 案B 新たな支援組織に移譲し解散する策

上記2案の同時進行で活動を行いました。残念ながら、昨年7月までに会員の新規入会はなく2020年に会は案Bにより解散することに決まりました。

一方で、新たな援農ITツールの効果は、海外(香港)からの体験ボランティア申し込みと参加という形で結実しました。農家が主体的にITツールを使いこなしていけるよう、また、新たな支援組織の立ち上げに資するためにも、今後とも取り組みを強化していく方針です。

12 事務局もしくは会員からひとことメッセージ

「くにたちの梨」を次世代に残していくために、

- (1) 小さな白い花が満開の梨畑で、花粉付けをぜひお手伝いください。
- (2) 新たな支援組織をぜひ立ち上げてください。くにたち・梨園ボランティアが解散する日まで全面的にバックアップします。

13 問合せ先

住 所 〒186-0005 国立市西1-5-35
電 話 070-1323-7474 (おっきなわ わんこさんも にゃんこさんも なしなし)
Eメール knv@kusanone.jp
Webサイト https://seisakusyo.jp/knv
Facebookページ https://www.facebook.com/knv74/
担当者名 隈井 裕之(事務局)

